

3月の行事予定

日	曜日	行事予定
1	金	A 委員会活動
2	土	B 防災訓練（5年生） 総合・校外学習（6年生）
3	日	
4	月	A 全校朝会
5	火	A 音楽集会（シンフォニック） 花育（6年生）
6	水	B
7	木	A 4時間授業（1～5年生） 謝恩会（6年生）
8	金	A ミニコンサート クラブ活動
9	土	シーバンス スプリングフェスタ(シンフォニック)
10	日	
11	月	A 全校朝会 避難訓練 5時間授業（全学年） 保護者会（4、5年生）
12	火	A ポケットの会 5時間授業（全学年） 保護者会（1、2、3年生）
13	水	B
14	木	A
15	金	A
16	土	
17	日	
18	月	A 全校朝会
19	火	A 4時間授業（1～4年生） 卒業式予行練習
20	水	春分の日
21	木	A 安全指導日 4時間授業（全学年） 給食終 大掃除
22	金	卒業式
23	土	
24	日	
25	月	A 修了式 2時間授業
26	火	春季休業日始
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

新年度【令和6年度】4月（予定）

4/5	金	入学式前日準備 新6年生 9:30～10:30 新2年生 10:30～11:00
4/8	月	始業式 8:20～ 入学式 10:00～

■今年度の校内研究について

今年度は、「問題を正答することのみを目的にする児童ではなく、答えが出るまでの過程を楽しむ児童を増やしたい」という教員の願いを発端に算数科に焦点を当てて「学習したことをもとによりよい考えを見いだす児童の育成」をテーマに校内研究を進めてきました。

例えば、1から10までの数を全て足す問題を出すと、前から順番に計算をして55と正答を導いて学びを止める児童もいます。一方で、55を見いだした後に、どのような計算方法があるのだろう、と別の計算方法を以下のように考える児童もいます。

$$(1+9)+(2+8)+(3+7)+(4+6)+10+5=10 \times 5 + 5$$

$$(1+10)+(2+9)+(3+8)+(4+7)+(5+6)=11 \times 5$$

$$(1+4)+(2+3)+(3+2)+(4+1)+5+(6-1)+(7-2)+(8-3)+(9-4)=5 \times 11$$

例えば上記の3つの方法等の子供たちが持ち寄り、それぞれの考えで用いたアイデアやその考えのよさを話し合い、自分なりのよりよい方法を見出していく、ことを目指してきました。そして、そうした解決方法を考える過程を楽しむ児童が増えることを期待してきました。何の脈絡もなく「多様な解決方法を考えましょう」と言っても児童はピンとこないものです。しかし、教員が多様な解決方法を考える必然性のある問題を提示したり、多様な解決方法を考える活動自体に価値を感じる児童が増えたりしたことで、授業風景が変わってきたように思います。

2月に行ったアンケート調査では、とある高学年児童が「算数の授業を楽しい」と答えたため、理由を確認すると、「学校の算数の授業は公式をただ覚えるのではなく、証明することを学習しているため楽しい」と記していました。算数では、例えば、分数÷分数の計算は「割る数の分母と分子を入れ替えて計算すればよい」ことだけを学習するではありません。自分の学習してきたことをもとに分母と分子を入れ替える根拠を明らかにすることも学習します。紙と鉛筆だけで先人が創り上げた解決方法の根拠を明らかにできることも算数科の面白さの一つとして学習するわけです。前述した児童には、この面白さが伝わっているのかもしれませんが。

多様な解決方法に触れる中で、解決方法の根拠を明らかにできる面白さを感じる児童が増えていくことを目指して、引き続き、日々の学習指導を行っていきます。

（研究主任 中嶋 広大）